

連合福島第30回定期大会開かれる

少子高齢化が拡大する中、政策要請及び各自治体との関係強化が必要
～地域社会や未組織労働者に顔の見える運動を強化！～



挨拶する今泉裕連合福島会長



来賓挨拶する神津里季生連合会長



熱心に傾聴する大会代議員の皆さん

連合福島の第30回定期大会は、10月25日福島市の福島グリーンパレスで開催され、役員・代議員など約200名が出席した。冒頭今泉裕連合福島会長は「人口減少が加速化し、少子高齢化社会が拡大する中、国内市場が縮小、AI・IoTの普及により働き方・仕事の仕方そして処遇が大きく変化しており、政策要請の強化と各自治体との関係強化が必要とされる。地域社会や未組織労働者に対して顔の見える運動を強化しなければならない」と挨拶した。

また、ご来賓として連合本部から神津里季生会長や鈴木正晃福島県副知事など多くのご来賓の皆様と温かいお祝いの言葉を頂戴した。

経過報告については執行部報告を満場一致で了承した。また、運動方針の提案に先立ち、新規加盟組合2組合が紹介されそれぞれに組合旗が授与された。2018年・19年の2年間の運動方針では自治労・佐藤代議員と電機連合・鈴木代議員から意見・要望に対し執行部が答弁し、満場一致で承認された。その後、6号議案の役員選出では、今野泰新会長はじめ新体制が確認された。退任役員に対して感謝状が授与されそれぞれご挨拶を頂いた。新役員もそれぞれ自己紹介し、全役員を代表して今野新会長が『効率性が重視されている中で、多様性も重視した組織運営、連合福島運動を進めてまいりたい』と挨拶した。「すべての働く者のための労働運動を力強く展開し、その社会的役割と価値を着実に次の時代につないでいく」とした大会宣言が採択された後、今野会長のガンバロー三唱をもって第30回定期大会を閉会した。その後、第30回を記念し第30回定期大会祝賀会が開催され、結成当時の写真と歴代会長のスピーチでこれまでの歩みを振り返った。



今野泰新会長から今泉氏に感謝状授与



新役員を代表し挨拶する今野会長



今野会長の発声で”ガンバロー三唱”